

はじめのはんごうごはん

古河市立中央小学校 二年 中村 瞭太

ぼくはお米が大すきだ。夏休みになると、おじいちゃんの家へあそびに行く。まわりには田んぼがたくさんあって、そろそろしゅうかくする金色のいねがピンとならんで立っている。ふくらとしたいなほかおじぎをするまでもう少しだ。

今日は、はんごうでごはんをたくか。うまいぞ。

2

いきなりお父さんが言った。はんごうでごはんをたくのははじめて。ぼくは、ワクワクしながらお父さんといっしょにじゅんびをした。石でかまどを作って、木をあつめた。木が大きかった。なので、のこぎりで小さくきった。のこぎりがうまくうごかなくて大へんだ。たき、た木をかまどに入れて火をつけ、はんごうをのせた。ぼくは、うちわをもって火のとうばんをした。大きなオニヤンマがぼくの前を何回もおった。オニヤンマも、ごはんが

たけるのを楽しみにしているみたいだ。ぜん  
 ぶはじめのことで、ぼくは楽しくて、む中  
 になつてかんばつた。とても大へんだ。たの  
 で、お父さんとぼくはあせびしよりだつた。  
 「おばあちゃんの小さいころはね、そうやっ  
 てかまどでたいんだよ。山から木をあつ  
 めて、火のばんをして。夏はあつくてね。  
 となりで見っていたおばあちゃんが、小さいこ  
 ろかまどでごはんをたいていた話をしてくれ  
 た。「時間がかかつてごはんをたべるまで大

へんだな」と思っていたら、きゅうにはんご  
 うからブクブクとあわがでてきて、あまい、  
 いいにおいがしてきた。  
 「もうすぐ出来上がりだ。」  
 火をよわくして、お父さんとさいごのしあ  
 げをした。ふたをあけると、まっ白いゆげの  
 中にふっくらとつやつやしたごはんが光つて  
 いた。ぼくのあせも光っていた。ひと口たべ  
 たら何とも言えないはじめの味だつた。  
 やっぱりはりぼくはお米が大好きだ。